
週休２日達成に向けた取組の 好事例集（第二版）

国 土 交 通 省

目 次

I. 住宅・不動産事業分野.....	1
1. 市街地再開発事業（完成済）.....	2
2. 市街地再開発事業・分譲住宅建設工事（完成済）★.....	4
3. 市街地再開発事業（完成済）★.....	6
4. 商業施設建設工事（完成済）.....	8
5. 商業施設建設工事（施工中）★.....	10
6. 高層マンション建設工事（完成済）★.....	12
7. 高層マンション建設工事（施工中）★.....	14
8. 高層マンション建設工事（施工中）★.....	16
9. 分譲住宅建設工事（完成済）.....	18
10. 分譲住宅建設工事（完成済）.....	20
11. 分譲住宅建設工事（完成済）.....	22
12. 分譲住宅建設工事（完成済）★.....	24
13. 分譲住宅建設工事（完成済）★.....	26
14. 分譲住宅建設工事（完成済）★.....	28
15. 分譲住宅建設工事（完成済）★.....	30
16. 分譲住宅建設工事（施工中）★.....	32
17. 分譲住宅建設工事（施工中）★.....	34
18. 分譲住宅建設工事（施工中）★.....	36
19. 分譲住宅建設工事（施工中）★.....	38
20. 宅地造成工事（施工中）★.....	40
21. 管理棟建替工事（完成済）.....	42
22. ショッピングモール造成工事（完成済）.....	44
II. 鉄道事業分野.....	47
1. 駅舎リニューアル工事（完成済）★.....	48
2. ホーム築造工事（施工中）★.....	50
3. 電柱基礎工事（完成済）★.....	52
4. 高架橋新設工事（施工中）★.....	54
5. 高架橋修繕工事（完成済）.....	56
6. 橋梁塗装工事（完成済）.....	58
7. こ線橋新設工事（完成済）★.....	60
8. こ線橋新設工事（完成済）★.....	62
9. こ線橋新設工事（完成済）★.....	64
10. こ線橋新設他工事（完成済）.....	66

11. こ線橋新設工事（施工中）★	68
12. こ道橋新設工事（施工中）★	70
13. こ線人道橋新設工事（施工中）★	72
14. 道路橋補修工事（施工中）★	74
15. 道床更換工事（完成済）★	76
16. 進入防止柵設置工事（完成済）.....	78
17. 侵入防止柵改修工事（施工中）★	80
18. 法面整備工事（完成済）.....	82
19. 法面改修工事（完成済）.....	84
20. 落石防止網新設工事（完成済）.....	86
21. 防風壁設置工事（完成済）★	88
22. 工業用水道管新設工事（完成済）★	90
III. 電力事業分野	93
1. 発電所施設用地造成工事（完成済）★	94
2. 原子力発電所立坑掘削工事（完成済）★	96
3. タンク基礎他設置工事（施工中）★	98
4. 発電所排水処理装置修繕工事（完成済）.....	100
5. 鉄塔工事（施工中）.....	102
6. 鉄塔工事（施工中）★	104
7. 鉄塔工事（施工中）★	106
8. 送電施設新設工事（完成済）★	108
9. 送電施設改良工事（完成済）★	110
10. 送電施設改良工事（施工中）★	112
11. 鉄塔建替工事（完成済）★	114
12. 鉄塔建替工事（施工中）★	116
13. 原子力発電所トンネル工事（施工中）★	118
14. 水圧鉄管更新工事（施工中）★	120
15. 火力線新設工事（未着工）★	122
16. タンク基礎他設置工事（施工中）★	123
17. 水力発電所再開発事業（施工中）★	125
18. 水力発電所改造工事（施工中）★	127
19. 変電所外装他修繕工事（完成済）.....	129
20. 発電所系統連系接続工事（施工中）.....	131
21. ダム管理所改修工事（施工中）★	133
22. 寮新館改修工事（完成済）.....	135
23. ロックシェッド設置工事（完成済）★	137
24. 発電所施設除却工事（施工中）★	139

25. 発電所設備撤去工事（施工中）★	141
26. 工事用道路整備工事（施工中）★	143
IV. ガス事業分野	145
1. LNG基地プラント建設工事（完成済）	146
2. 発電用LNG設備設置工事（完成済）	148
3. 製造設備増設工事（完成済）☆	150
4. ガス製造プラント改修工事（施工中）★	151
5. 幹線建設工事（完成済）	152
6. 幹線建設工事（完成済）☆	154
7. 幹線建設工事（シールド工事）（完成済）☆	156
8. 幹線建設工事（シールド工事）（施工中）	158
9. 幹線建設工事（シールド工事）（施工中）	160
10. 幹線建設工事（シールド工事）（施工中）	162
11. 幹線建設工事（シールド工事）（施工中）	164
12. 幹線建設工事（施工中）★	166
13. ガスパイプライン築造工事（シールド工事）（施工中）	168
14. ガスパイプライン築造工事（シールド工事）（施工中）	170
15. 配管工事（施工中）☆	172
16. 建屋新設工事（完成済）	174
17. 地上タンク除却工事（完成済）	176
V. 工場分野	179
1. 工場新設工事（完成済）★	180
2. 工場新設工事（完成済）★	181
3. 工場新設工事（完成済）★	183
4. 工場新設工事（施工中）★	185
5. 工場新設工事（施工中）★	186
6. 工場新設工事（施工中）★	188
7. 工場新設工事（施工中）★	190
8. 工場新設工事（施工中）★	192
9. 工場増築工事（完成済）★	194
10. 研究施設新設工事（完成済）★	196
11. 工場設備基礎工事（完成済）★	198
12. 燃料発電施設工事（施工中）★	200
VI. 病院分野	203
1. 病院新設工事（施工中）★	204

2. 病院新設工事（施工中）★	206
3. 病院増改修工事（施工中）★	208
4. 病院建替工事（施工中）★	210
5. 病院移転工事（施工中）★	212

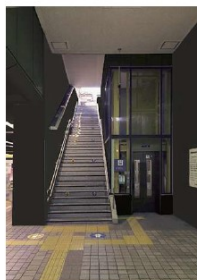
注） 「施工中」または「完成済」：令和2年1月末現在の状況。

「☆」：掲載内容を更新した事例。

「★」：第二版に新たに追加した事例。

Ⅱ. 鐵道事業分野

1. 駅舎リニューアル工事（完成済）☆

工事概要			
発注者	〇〇鉄道会社	受注者	〇〇建設会社
工事規模	契約額：約2億円	工期	645日
工事内容	区分：改修・建築		
	施設用途：駅舎		
	諸元等：		
	・建築工事（駅事務室、店舗区画）、設備工事、塗装工事（駅舎、コンコース、天井、階段等）		
	条件等：		
	・建築の工事のみではなく、鉄道施設に係る電力設備や通信設備との取り合いや、移設等の調整、施設を使用しながら施工を実施。		
	・新設のみの工事ではなく、レイアウト変更を伴う解体撤去後の新設であったことから、騒音振動を伴う作業。		
	・レイアウト変更においても、設備や駅事務室等は使用を継続しなければならないことから、同時施工が不可能（工期が長期化）。		
	施工体制：		
	・一次下請 9 社、二次下請 22 社（下請者総数：31 社）		
     			

取組目標

☆ 現場閉所 4週8閉所 ☆ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

・4週8休達成の可能性がある工期であった。

・最終実績としては、4週8閉所（4週8休）であった。

□ 目標対象者の範囲

・原則、元請け、下請けを問わず全ての現場従事者を対象とした。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○工期

・4週8休達成の可能性がある工期であったため、特段の取組は行っていない。

○定期の会議等を通じた工程調整

・月1回程度、工程会議を定期的に行い、発注者及び受注者が参加して、進捗状況の確認、手戻りを無くすための各種工事との調整を実施した。

・工程会議以外においても、他種作業との調整を行い、進捗の管理や手戻りがないように実施した。

■ 取組をおこなって良かった点

・発注者として、当該駅周辺の住民の方に対し、1週間単位で騒音・振動等の影響の低減を図れた。

■ 留意すべき課題等

・発注者として、全体的に仮設物を設置する期間が長くなることから、お客様が不便である状態(通路が狭くなるなど)の期間が長期化した。

・仮設物の設置期間が長いことや、補修箇所を明確にするためのテープを貼り続ける期間があったことから、工事の期間が長いという印象をお客様に与えてしまった。対応としては、仮設物が必要な理由を頂戴したご意見毎に対応した。

・本工事の取組や目標は、事前に4週8休の工期が設定できれば、他の類似工事においても可能と考えられる。

・ただし、発注者の列車運行本数の観点から、平日に比べて土休日は「線路閉鎖時間を長く設定できる」ため、線路の切替等の作業量が多いものや平日の作業が不可能であるものを実施している。そのため、その前後の日も段取りや作業後の調整をしていることから、全ての工事には当てはまらない。

・様々なお客様(駅周辺の住民の方や駅から離れている住民の方、駅を毎日ご利用の方や駅利用の頻度が低い方)がおり、各々のご意見が異なる場合もある。一方、施設を維持管理する立場として、仮設期間や工事期間をより少なくし、安全な状態を極力早く提供することが必要である。

・なお、発注者の工事発注は年度毎となっており、土日に休みを設定すると延日数が増え、工期が年度を跨いでしまう恐れのある工事では、予算管理部署との調整が必要となる。

*Key Word:*定期の会議

2. ホーム築造工事（施工中）☆

工事概要

発注者	南海電気鉄道(株)	受注者	JV(大林組・南海辰村建設・佐藤工業・三井住友建設)
工事規模	契約額：約4千万円 工期：366日		
工事内容	区分：改修・土木 施設用途：駅舎 諸元等： ・高架化工事に伴う仮駅の設置付帯工事 ・ヤード整備、電柱基礎工 条件等： 周辺環境：住宅街に隣接（環境に関する配慮が必要） 引き渡し：継続工事（年度ごとに竣工） 施工体制： ・下請け階層：三次、一次下請 約5社、二次下請 約9社、三次下請 約1社 （下請者総数：15社）		
			

取組目標

★ 現場閉所 4週8閉所 ☆ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

・受注者の会社および現場所長の方針に基づき、当初計画の工事内容を変更することなく、工程・施工上の工夫を重ねることで、4週8休の工程計画により、発注者が求める工事完成時期に十分間に合うと判断した。

・天候以外の施工障害については、特に事前の想定はしていない。施工障害が発生した時点で、発注者と受注者で協議の上、別途工程の見直しを行う予定である。

□ 目標対象者の範囲

・原則、元請け、下請けを問わず全ての現場従事者を対象としている。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○事業主体および施工会社との調整

・本工事は連続立体交差化に伴う仮線工事であり、事業主体である自治体に本取組の趣旨について理解を求め了承を得ている。また、他の工区へもヒアリングを行い、働き方改革への取組に関する受注者側の姿勢・熱意を考慮して、目標が実現可能であることを確認した。

- ・なお、他の工区では、各JV構成会社の働き方改革の取組によって異なるが、概ね4週6閉所＋ α から4週8閉所の間で、工程を計画している。

○施工上の工夫

- ・コンクリートの養生期間や塗装の乾燥期間などがうまく閉所期間になるよう、受注者に工夫を促している。
- ・受注者との工程会議では、積極的に意見し、閉所期間を活用できるよう指導している。

□ 受注者側の取組

○土曜閉所と長期休暇

- ・一部土曜日の閉所により4週6閉所(78日/年)とし、連休、お盆等の長期休暇他(年間26日閉所)を実施し、全体として4週8閉所相当を実現させていくものとした。

○施工上の工夫

- ・工事の施工効率を向上させるため、複数工種の同時施工や施工順序の工夫(施工ブロック単位での作業の重複化)を行っている。
- ・工期短縮・効率化を図るため工程の調整を行っている(生コン打設に伴う養生期間を休日利用するよう打設の工程の調整等)。

■ 取組をおこなって良かった点

- ・従前より休日が増えたため、家族との時間が増えたという声があがっている。

■ 留意すべき課題等

- ・発注者としては、他の工区で4週8閉所ができていないため、発注者側としては閉所日数の削減に繋がっていない。発注者側は、交代制で週休2日を確保している。
- ・今後、目標達成を困難にする恐れのある事項等としては、想定外の事象により工程遅延が発生し、工期内に所定の工事が完了しないことが予想され、他工区への影響が出る場合が挙げられる。
- ・本工事の取組や目標は、受注者側の協力体制と事業主体の理解があれば、他の類似工事においても可能と考えられる。

Key Word: 土曜閉所、施工上の工夫

3. 電柱基礎工事（完成済）☆

工事概要			
発注者	〇〇鉄道会社	受注者	〇〇建設会社
工事規模	契約額：約 1.5 億円	工期	432 日
工事内容	区分：新設・土木 施設用途： 諸元等： ・電柱建替えに伴う架線支持物の基礎構築（電柱基礎6か所・12 基） ・鋼管杭 φ500、L=12.5m（BH マシンによる掘削） 条件等： ・周辺環境：軌道内作業であるため、鉄道への影響を考慮して主に夜間作業 施工体制： ・土木工事：一次下請 1 社、二次下請 2 社 ・杭打工事：一次下請 1 社、二次下請 2 社 ・交通誘導員：一次下請 1 社		



取組目標

★ 現場閉所 4週8閉所 ☆ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

- ・発注者は、工事の計画、発注段階から工期に余裕があり、社内工事であることから外部（社外）からの制約もないため、工事工程の調整が比較的容易であると判断した。
- ・受注者は、発注者からの指示により週休2日に取組むため、発注者と事前に工程に関する打合せを密に行い、4週8休の目標を設定し、結果として4週8休することができた。
- ・設計段階と違う位置に地下埋設物が見つかり、計画の一部見直しを余儀なくされたが、最終実績としては、4週8閉所（4週8休）であった。

□ 目標対象者の範囲

- ・元請け及び下請けの全ての現場従事者（現場技術者2人、現場作業従事者 平均 10 人 / 日）を対象とした。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○ 週休2日の導入

- ・全体スケジュールから、使用機械や材料等の手配や調達の遅延等に留意し、お盆期間の集中した休日計画などの検討を受注者で行った。
- ・受注者とは月間・週間工程表及び作業日報により、最新の現場進捗状況を常に共有することで、週休2日の実現に向けた工程管理に努めた。

□ 受注者側の取組

○週休2日の導入

- ・月間・週間工程表及び作業日報により、発注者と進捗状況等に関する打合せを密に行い、週休2日の実現に向けた工程管理を実施した。

■ 取組をおこなって良かった点

- ・発注者と受注者との間で、現場の進捗状況など、打合せ時に情報を共有し、先々の施工手順や段取り等について事前調整を図るようになった。
- ・受注者としては、休暇を定期的にとることができるため、遠方から出向している現場作業従事者等も毎週帰宅でき、身体の休息や家族サービスができるようになったと好評を得ている。

■ 留意すべき課題等

- ・本工事は、第三者の現場侵入が容易ではない施工箇所であったため従来以上の特別な対策は講じなかったが、今後同様の工事で、踏切道等からの第三者侵入が想定できるケースにおいては、休日の増加＝無人の時間帯増加による鉄道の運行や現場の妨害に対する検討が必要である。
- ・特に施工箇所が点在している場合や仮囲い等による現場の閉所が困難な場合には、現場巡回が必要となる可能性がある。
- ・本工事では、長期の降雨や予想以上の台風の襲来、地震の発生、さらに人身事故等の突発的な事象による夜間作業の中止等により、何度となく計画の見直しを余儀なくされ、施工班を追加することで工程の回復を図った。
- ・日給月給の現場作業従事者にとっては、収入が減ってしまうことが課題となっている。
- ・本工事の取組や目標は、外部からの制約を受けない発注者内の工事であれば、他の類似工事においても可能と考えられる。

Key Word: 週休2日

4. 高架橋新設工事（施工中）☆

工事概要

発注者	(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構	受注者	JV(東急建設・東鉄工業・小倉組)
工事規模	契約額：約55億円 工期：2,133日		
工事内容	区分：新設・土木 施設用途：高架橋 諸元等： ・山岳トンネル、桁式高架橋 ・トンネル工1,450m、高架橋工169m、土工87m 条件等： ・特になし 施工体制： ・下請け階層：三次、一次下請 約10社		

取組目標

☆ 現場閉所 4週8閉所 ☆ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

・発注者として週休2日を設定しているわけではないが、受注者独自の取組として週休2日を設定している。受注者が施工方法や工程の検討を行い、提出してきた週休2日に基づく工程を確認し、妥当性を判断した。

・受注者としては、時代背景を鑑み、会社独自の取組として開始した。

□ 目標対象者の範囲

・原則、元請け、下請けを問わず全ての現場従事者(現場技術者10人、現場作業従事者60人)を対象としている。

・取組開始当初に、協力会社から、天候等による工程遅延の場合についての問合せはあったが、適宜対応するということで理解を得ている(必要に応じて土曜日の作業を認める)。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

・特段実施している施策はない。

□ 受注者側の取組

○ 週休2日の導入

・土日休工の工程により管理していく以外は特になし。

・土日を休日とした工程で事前に計画および打合せを行い、それを実現できるように日々の管理を実施している。

■ 取組をおこなって良かった点

・受注者としては、週6日働くための体力配分を5日に集中して作業することができるようになっていく。

・現場作業従事者からは、休暇日が決定しているので、より身体の休息や家族サービスができるようになったと好評を得ている。

■ 留意すべき課題等

- ・発注者として、現時点で課題等は浮き彫りになっていないが、今後、不測の事態（地山状況、地元からの苦情、資機材の不足等）に伴う工程遅延が発生した場合、土曜日に作業ができないことで、工程の確保が難しくなる可能性がある。
- ・受注者側では、現場は休工しているが、職員の内業による出勤があり、人手不足の解消や生産性向上の実現には課題がある。また、長時間労働や生産性向上に関する元請けの職員の意識改革が必要である。
- ・今後、目標達成を困難にする恐れのある事項等としては、大雪や大雨等の気象状況、地山の状況、地元からの苦情、労働力や資機材の不足等が挙げられる。
- ・本工事の取組や目標は、十分な工期があれば、他の類似工事においても可能と考えられる。

Key Word: 週休2日

5. 高架橋修繕工事（完成済）

工事概要			
発注者	東武鉄道(株)	受注者	鹿島建設(株)
工事規模	契約額：約4千万円	工期	180日
工事内容	区分：改修・土木 施設用途：高架橋 諸元等： ・上高架橋表面の修復工事、高架橋表面に補強用の三軸ネットを貼付する工事 条件等： ・高架下が駐車場として利用されており、工事に伴い、車を一時的に移動させていたため、引き渡し時期に制限があった。 施工体制： ・下請け階層：三次、一次下請 4社  		

取組目標

★ 現場閉所 4週8閉所 ★ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

- ・受注者から、従前から実施している修繕工事の実績によると1作業の日当たり施工量が決まっているため、作業範囲を広範囲にすることにより、工期の短縮が可能である提案があった。
- ・このため、発注者と受注者が協議を行い、4週8閉所を設定し、休日を確保する取組を実施した。
- ・本工事では、駐車区画の移動が数ステップに分かれる計画であったが、受注者の意見を踏まえ、受注者に負担の掛からない工期の設定に努めた。
- ・受注者は、2年前から同様の工事を連続して施工しており、その実績から日当たり施工量を算出していたため、設定工期は妥当と考えた。
- ・なお、工期については積算工程よりも長い工期を設定していたため、変更はしていない。
- ・最終実績としては、4週8閉所(4週8休)であった。

□ 目標対象者の範囲

- ・原則、元請け、下請けを問わず全ての現場従事者を対象としている。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○作業の平準化

- ・2年前から連続して行っている工事であったため、受注者には、前工事の施工中から本工事の他部署調整等に参加してもらい、全体計画を策定する際に余裕のあるスケジュールとするなど、作業の平準化に努めた。

○工事に関係する第三者との調整

- ・工事に支障する高架下利用者(駐車場)の移動先等、工事に関係する第三者との調整を密にとることにより、実施する工事をスケジュール通り進められるよう努めた。

□ 受注者側の取組

○施工効率の向上

- ・発注者の働きかけにより、作業ヤードを大きくとることができ、施工日によって隣接駐車場の車の養生が不要な施工箇所が発生した上、資材置き場も設けることができ別のヤード等から資機材の搬入出を減数したことによって、施工効率を向上させることができた。
- ・また作業員が重い機材を肩より高い位置に保持して作業をする工種において、工具を下から支える機材を導入し、作業員への負担を軽減することで施工効率を向上させることができた。



機材導入前



機材導入後

■ 取組をおこなって良かった点

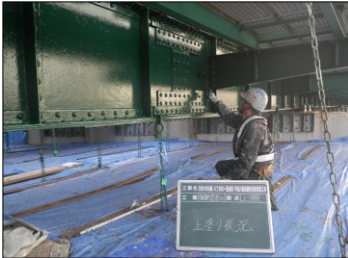
- ・週休2日を目指すため、週1回以上、発注者と受注者との調整を行い、結果として工事がスムーズに進捗した。

■ 留意すべき課題等

- ・事前に工程をしっかりと決めた取組であったため、工事の進捗が想定より早くても、ステップの切り替えまで待つことがあった。
- ・鉄道工事の特性上、工事ができない日が発生すること等が考えられ、無理に工期短縮することはリスクがあると考えている。
- ・4週8休により、日給月給の現場作業従事者は収入減となる。
- ・本工事の取組や目標は、他の類似工事においても、計画時に4週8閉所を考慮した工程であれば目標達成に努力可能である。

Key Word: 作業の平準化、第三者との調整、施工効率

6. 橋梁塗装工事（完成済）

工事概要			
発注者	〇〇鉄道会社	受注者	〇〇建設会社
工事規模	契約額：約0.12億円		工期：60日
工事内容	区分：改修・土木		
	施設用途：橋梁		
	諸元等：		
	・上路鋼板桁(単線)4橋、下路鋼板桁(単線)1橋		
	条件等：		
	・河川を跨ぐ桁であり、吊り足場の設置に伴い、河川管理者との協議が必要。		
	・線路内は、昼間は列車を監視する専任の監視員が必要。		
	・夜間は線路閉鎖を取得するための手続、他の夜間工事との調整等が必要。		
	施工体制：		
	・下請け階層：一次下請 1社、二次下請 1社(下請者総数:2社)		
			

取組目標

★ 現場閉所 4週6閉所 ★ 現場作業従事者 4週6休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

- ・発注者は、自社物件の工事であるため、工期や工程調整が行いやすいため、4週6閉所、4週6休の目標設定を行った。
- ・複数の企業に設定工期に関する事前ヒアリングを実施し、得られた意見を踏まえ、4週6休を考慮した工期を設定した。
- ・また、発注者から受注者に、4週6休で施工計画を立てるよう依頼をした。
- ・最終実績としては、4週6閉所(4週6休)であった。

□ 目標対象者の範囲

- ・原則、元請け、下請けを問わず全ての現場従事者(現場技術者1人、現場作業従事者6人)を対象とした。
- ・発注者から受注者に事前に説明を行ったため、特に抵抗等はなかった。
- ・ただし、経費割増により日当が増額になっているものの、現場作業従事者の中には給料が減るため土曜日も作業したいとの意見もあったが、今回の取組の趣旨は理解していただいた。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○集中した連続休日の取得

- ・連休に集中して休日を取得するよう受注者と協議し、工期全体として4週6閉所を実施した。

○夜間工事における他工事との調整

- ・夜間に線路閉鎖が必要な場合には、他の夜間工事(他の線路・電気工事)と施工区間が被る可能性があるため、調整を行った。

□ 受注者側の取組

○月2土曜休日の導入

- ・毎週日曜日と隔週の土曜日を休日とし、また年末年始は12月29日～1月6日を休日とした。

○定期の会議等を通じた工程管理

- ・作業日報や週間・月間会議を通じて、下請けと仮設計画や進捗状況等に関する定期的な打合せの場を設け、週休2日の実現に向けた工程管理を実施した。

- ・元請けでは月1回全体会議(他の工事含む)を実施。また毎週始めに一次下請けと週間工程打合せ、さらに二次下請けを含む作業日報を活用した朝礼・KY活動を行うことにより、スムーズに工事を進捗することができた。

- ・中間検査毎に進捗状況の報告を行うとともに、別途発注者から進捗確認があれば工事進捗の状況報告を口答で実施した。

■ 取組をおこなって良かった点

- ・定期的な打合せ及び朝礼等において作業内容の確認を行い、二次下請けを含む全員が理解して作業を進めたため、スムーズに工事進捗することができた。

■ 留意すべき課題等

- ・今後、目標達成を困難にする恐れのある事項等としては、想定外の災害(地震等)が発生した場合が挙げられる。

- ・本工事の取組や目標は、コスト面を除けば、他の類似工事においても可能と考えられる。コスト的には、本工事は通常の工事と比較して経費が割高となっている。

Key Word: 集中した連続休日、月2土曜休日、定期の会議

7. こ線橋新設工事（完成済）☆

工事概要

発注者	九州旅客鉄道(株)	受注者	〇〇建設会社
工事規模	契約額：約12億円	工期	3年6ヶ月
工事内容	区分：新設・土木 施設用途：こ線橋 諸元等： - 一般県道諫早外環状線 鉄道こ線橋梁 下部工新設、上部工鋼桁架設 条件等： - 地盤条件：火山灰質土層、砂礫、砂、砂質土層 地盤種別：Ⅱ種 液状化判定なし - 地盤条件による下部工、場所打杭施工による地盤等変位管理 - 周辺環境：鉄道、高速道路、住宅、生活道路に囲まれた狭隘地施工 - 鉄道近接及び鉄道上空工事に伴う安全管理、夜間線路閉鎖工事等 - 住宅地近隣、周辺道路、河川等狭隘環境による交通規制及び対策工 - 引き渡し：2019年度 施工体制： - 一次下請 16社、二次下請 17社、三次下請 13社		



取組目標

★ 現場閉所 4週8閉所 ☆ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

・発注者は、発注時に4週4休・4週4閉所を想定した工事期間を設定していたが、協定先である事業主体の県(以下「協定先事業主体」という。)から土曜日、日曜日、祭日の作業休止依頼があった。

・協定先事業主体による民間家屋支障移転の調整等を含め、協定先事業主体と協議を行った結果、工事完了時期について理解を得ることができたため、4週8休・4週8閉所の取組を実施することとなった。

・最終実績としては、4週8閉所(4週8休)であった。

□ 目標対象者の範囲

・原則、元請け、下請けを問わず全ての現場従事者を対象とした。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○週休2日の導入

- ・土曜日、日曜日、祭日を閉所とする。

○3者による月間会議の開催

- ・協定先事業主体、発注者、受注者間の認識を共有するため、3者による工事進捗状況等に関する定期的な月間会議を設け、4週8休の実現に向けた工程管理を実施した。

- ・月1回の3者での月間会議により、工程進捗、工程変更について意見交換を実施している。月間会議では、構造物構築部位変更計画の策定や工期短縮・工事用進入路確保のための河川上工事用栈橋構築について協議し、協定先事業主体に発注者として工期短縮などのために実現可能な施工方法を提示して要請した。

- ・また現場状況に応じ、変更計画について協定先事業主体、発注者、受注者にて調整を実施した。

■ 取組をおこなって良かった点

- ・休暇を定期に取ることができるため、身体の休息や家族サービスができています。
- ・取組の実現に向けて綿密な事業工程管理が必要となるため、協定先事業主体との意見交換や情報共有を積極的に行うようになった。

■ 留意すべき課題等

- ・発注者としては、4週8休を考慮した工期設定で発注する必要があるとあり、協定先事業主体との協議及び理解を得ておくことが必要である。
- ・協定先事業主体との協議では、協定先事業主体による民間家屋支障移転の遅延による現場乗込み時期の調整や、近接する住宅への騒音・振動対策に配慮が必要となった。
- ・工事工期が伸びることにより、現場経費の増加分を考慮しなければならない。現場経費の増加分は、国土交通省の積算基準等を参考に算出し、その負担は協定先事業主体にて行った。また重機等の存置賃料や損料が増加し、受注者との協議や設計変更が必要となる。
- ・土曜日や祭日を休日とすることで、元請けの社員の書類作成、施工段取り計画等の業務日数が少なくなり、平日の業務を圧迫するケースも生じた。
- ・土曜日、日曜日、祭日が作業休止のため、雨天、機械トラブル等による工程遅延を取り戻すための調整が必要となった。
- ・コンクリート打設後の養生や台風の接近による現場養生を行う際には、協定先事業主体及び地元住民の了解を得て、休日作業の指示をせざるを得ない状況があった。
- ・協定先事業主体から、開業目標や別会社施工の現場との関係から部分引渡し等の要望があり、それに対する工程調整が必要。月間会議において、協定先事業主体による発注工事の状況や当社発注工事の進捗を勘案した工程調整を行い、部分引渡し時期を設定した。

Key Word: 3者による月間会議

8. こ線橋新設工事 (完成済) ☆

工事概要

発注者	西日本旅客鉄道(株)	受注者	大鉄工業(株)
工事規模	契約額：約12億円	工期	1,260日
工事内容	区分：新設・土木 施設用途：道路橋 諸元等： ・線路上空への道路橋新設工事 ・橋台2基(杭基礎 全周回転式オルケーシング工法、φ1000、N=21本) ・単純鋼床版箱桁橋 1連(橋長L=47.6m、支間長L=44.6m、送出し架設) 条件等： ・地盤条件：GI-4.0m～9.0mは粘土層 N値50以上が点在。 ・周辺環境：鉄道線と国道との立体交差部。現場隣接には工場があり、国道側には民家がある現場環境である。 ・引渡し時期：事業主体である県に工事しゅん功後、2019年12月に引き渡し。 施工体制： ・下請け階層：三次、一次下請 7社、二次下請 8社、三次下請 2社		



取組目標

★ 現場閉所 4週8閉所 ☆ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

・受注者から発注者に、会社の働き方改革の一施策として「4週8休モデル現場試行」を当該現場にて実施したいとの提案があった。当該現場の選定理由は以下の2点である。

- (1) 鉄道の運転保安上の運転手続きが必要な日数が少なく、変動要素の少ない跨線橋の現場であること。
- (2) 当該現場の残工事が、橋梁工と一部土工の工種であったため、列車運行乱れ等に工事進捗が左右されにくく、調整がスムーズに行えること。また、受発注者間でお互いに努力していこうとの合意形成があったこと。

・ただし、今回は、工期厳守を前提としている。工期が間に合わない場合は4週8休の取組を解除することを受発注者双方で合意してから開始した。受注者としては、創意工夫により実施工程上、可能と判断している。

・最終実績としては、工期全体を通じて、目標の現場閉所による4週8休であった。

□ 目標対象者の範囲

・元請けの社員のみ(5人)を対象としている。しかし、現場閉所であるため実質、元請け、下請けを問わず、全ての現場従事者が土公休日は当該現場で働いていない状況となる。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○取組に対する理解、判断

- ・発注者と受注者との間で「4週8休モデル現場試行」について、互いに確認した。
- ・過去の同種工事の実績と、残りの全体工事工期とその工事内容を精査し、工事ロス、雨天等による工程ロスを含めても、取組の実現が可能と判断した。

○定期の会議等を通じた工程調整

- ・毎月1回、発注者と受注者の合同調整会議にて4週8休の月間工程の説明および取組状況を確認している。具体的には、
 - ・工程上のクリティカルパスを明確化し、土公休日を外して工程調整を行う。
 - ・線路閉鎖確保によって、やむを得ず土日の夜間作業が発生する場合は、平日に休日振替を行う。
 - ・コンクリート打設は平日を目標とし、週末休日は養生に費やす。
 - ・年末年始、GW、お盆などは長期連休が確保できるように調整し、長期連休とする。

○その他

- ・発注者と施工会社との着工準備検討会では、モバイルディスプレイを使用し、受注者の資料作成時間の短縮等を図っている。



モバイルディスプレイ

□ 受注者側の取組

○工程調整会議を通じた工程調整

- ・開始当初、会社の工事部長が参加し、元請けと一次下請による4週8休工程調整会議を実施し、互いに確認を実施した。
- ・以降、毎月、4週8休工程調整会議を実施し、先月の振り返りと来月の工程調整を行っている。



モデル現場の横断幕

○モデル現場の啓蒙

- ・現場、または現場事務所前に「4週8休モデル現場」の横断幕を設置した。また関係者や搬出入業者に掲示している。

■ 取組をおこなって良かった点

- ・発注者としては、受注者から工期短縮に向けた様々な提案が出たことや現場で工夫が行われたこと、また現場のコミュニケーションが活発になったことは良かったと考えている。
- ・受注者としては、どうすれば土日作業が減らせるか、工程短縮が可能か等、職員・職長・現場作業員との対話が増え、コミュニケーションが積極的に図れている。また工程調整が入念になり、工程誤差を減じることができている。

- ・元請けの所員は、週末をゆっくり休めるようになり、体の休息、家族サービスができて家族から喜ばれている。

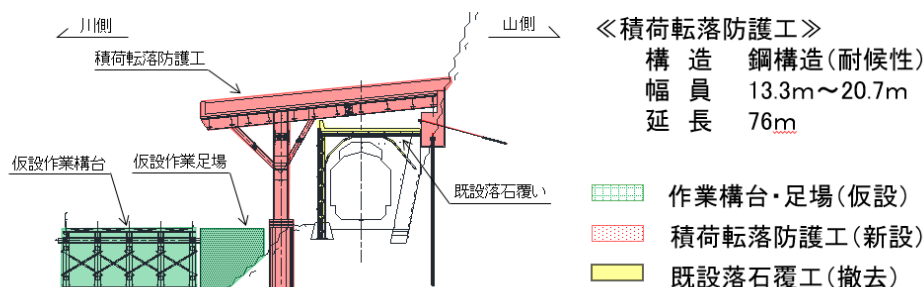
■ 留意すべき課題等

- ・発注者としては、4週8休の導入に伴い、請負価格(経費等)の上昇が懸念される。
- ・日当制の現場作業員もいるため、対応を検討する必要がある。
- ・営業線近接の工事では、4週8休により工期延伸した場合、運転保安上のリスクを抱える期間が延伸することになるため、生産性向上による工程短縮も進める必要がある。
- ・発注者としては、4週8休導入に伴い工期が伸びること、および、やむを得ない事由により年度内支出が終わらないことが見込まれ、繰越制度を活用しなければならない可能性があることは、事業主体側と事前に共通認識しておく必要がある。
- ・鉄道特有の制約条件が少なく、計画段階から4週8休が考慮されていれば、事業主体、発注者、請負会社、協力会社が同じ共通認識を持っていることを前提に、本工事の取組や目標は他の類似工事においても可能と考えられる。

Key Word:定期の会議、啓蒙

9. こ線橋新設工事（完成済）☆

工事概要			
発注者	東海旅客鉄道(株)	受注者	JV(名工建設・鉄建建設)
工事規模	契約額：約 25 億円	工期	1,617 日
工事内容	区分：新設・土木 施設用途：防護工 諸元等： ・一般国道整備計画による鉄道交差部へのこ線橋新設工事に伴い、交差箇所への積荷転落防護工の新設等 条件等： ・施工現場は、川と山に挟まれた狭隘な環境にあり、アクセス道路や施工ヤードとなる土地がないことから、資機材の搬入出は軌道モーターカーを使用し、施工ヤードとして線路脇に構台の設置が必要。 ・安全確保の観点から、軌道モーターカーの使用は保守用車の線路使用手続き、線路直上の作業は線路閉鎖工事及び架線の停電措置を行う必要があり、手続きに伴って保守区工事との工事調整が必要。 施工体制： ・一次下請 複数社		



取組目標

★ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

・発注者は、以下の①、②により、「年間を通して4週8休相当」という目標を設定した。

- ① 年末年始やGWなど、各 10 日ほどの長い作業規制期間を活用して、休日を確保する。
- ② 夜間の作業に関して、線路閉鎖工事や保守用車使用工事など、鉄道特有の工事が含まれており、保守区工事との調整で作業が実施できない日を休日とする。

・最終実績としては、年間を通して4週8休相当であった。

・なお、閉所数については目標として設定していない。

□ 目標対象者の範囲

・元請けの社員のみを対象としている。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○4週6休の基本工程

・受注者から提出された4週6休の基本工事工程を承諾し、年末年始やGWの期間を作業規制期間として発注者側で設定している。作業規制期間中は休日となるよう受注者と打合せを行った。その結果、年単位で4週8休相当となった。

・作業規制期間は年間 30 日程度。鉄道事業の特異性から、GW・お盆・年末年始の多客輸送期間等は、お客様への影響を考慮し、原則作業を行わない期間として設定した。

・なお、当初発注時に受注者との協議の中で、多客輸送期間等は原則作業ができないことを伝えている。

○定期の打合せ等を通じた工程調整

・受発注者間で毎月1回の定例的に打合せを行うほか、必要に応じて打合せを実施し、今後の工事の工程・施工方法・課題を共有することで、認識違いによる手戻りを減らした。

・線路閉鎖工事、保守用車運搬など夜間作業が中心となる時期は、保守区との作業調整により、夜間作業ができない日を休日とできるよう工程打合せを行い、年単位で4週8休相当を確保できるように調整した。

・施工開始後、①現地の地盤が想定していた地盤よりも硬質であったこと、②新設する覆工に近接する地山形状が設計と異なっており、覆工形状を変更する必要があったことから、事業主体と協議し、工期・工事費を見直すことで無理のない作業工程とした。

○施工上の工夫

・新設構造物の設置により旧構造物の撤去が狭隘な環境下での作業となるため、受注者と調整し、旧構造物を事前に改良することで安全を確保した上で撤去作業の効率化を図った。

・資機材の搬入・搬出を行うモーターカーの運用に関して、発注者側で他工事と調整することにより、できる限り運搬回数を確保し、本体作業に制約が発生しないよう調整を行った。また使用する鉄製トロを保守区所有の物から工事専用の物に変更することで、運搬作業上の制約を減らした。



鉄製トロ

■ 取組をおこなって良かった点

・受発注者間での密な打合せにより、情報の共有化が図られ、それにより工程も守られ、運転関係の事故なく安全に施工を継続できた。

■ 留意すべき課題等

・鉄道工事の性質上、作業内容によって線路閉鎖工事やき電※停止作業等の多くの制約を伴う作業を行わなければならないが、保守作業との調整結果や天候や列車ダイヤの乱れに伴い、計画通り作業日数を確保できない課題がある。

※:き電とは、走行する電気車に必要な電力を供給すること。

・工期、工事費が増加する場合は事業主体の理解が必要となる。

Key Word: 定期の会議、施工上の工夫

10. こ線橋新設他工事 (完成済)

工事概要			
発注者	東日本旅客鉄道(株)	受注者	鉄建建設・鹿島建設共同企業体
工事規模	契約額：非公表	工期	1,318 日
工事内容	区分：新設・土木 施設用途：高架橋 諸元等： ・大口径深礎 20.5m、RC 橋脚1基、PC 道路橋張出施工 122m 条件等： ・地盤条件：山合いの傾斜地 43 度に橋脚を構築 ・周辺環境：鉄道線との近接作業(影響範囲Ⅲ)および線路上空作業 ・開通予定：2020 年度 施工体制： ・下請け：一次下請 約 13 社、二次下請け 約 15 社(下請者総数：約 35 社)		
			

取組目標

★ 現場閉所 4週6閉所 ★ 現場作業従事者 4週6休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

・発注者は、年度当初時点の出来高が 70%以上であったために、その後の工程を厳守することと、同者が定める輸送繁忙期の作業規制期間(GW、お盆、年末年始、ダイヤ改正日等)に集中して閉所することにより、4週6休の取組は実現可能と考えた。

・本体躯体は、全 19 ブロックの躯体を繰り返し張出し施工するものである。受注者の施工計画時に、実施工サイクルを考慮して日割り工程を決定し、受注者が関係会社と調整した上で、工程を遅らせることなく実施可能と判断できたため、目標として設定することができた。また協力会社には受注者のアクションプログラム等を説明し、理解と協力を得ることができた。

・4週6休の目標は、平成 30 年4月から設定した。

・結果として、2018 年度は4週7.4休であった。

□ 目標対象者の範囲

・原則、元請け、下請けを問わず全ての現場従事者(現場技術者5人、現場作業従事者 25 人)を対象とし、概ね前向きに取り組んでもらった。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○集中した現場閉所

・発注者が定める輸送繁忙期の作業規制期間(ゴールデンウィーク、お盆、年末年始、ダイヤ改正日等)に集中して閉所するよう調整を実施した。

II.鉄道事業分野

- ・作業規制期間のある月は土曜閉所とすることなく、作業規制期間に集中して現場閉所とし、作業規制期間がない月は2回の土曜閉所を実施するよう、受注者と調整を行った。

○テレビ通話アプリ等の活用

- ・テレビ通話アプリを活用した遠隔立会の実施等により、往復4時間の移動時間を削減させ、立会の手待ち時間を削減している。7 カ月間の 57 回の立会のうち、約半分の 26 回はテレビ電話アプリで立会を実施した。
- ・日々の作業内容打合せ(保安打合せ)は、発注者のBIMクラウドおよびテレビ通話アプリを活用して実施し、移動時間の削減と、ペーパーレス化を図った。



テレビ電話アプリ活用状況

□ 受注者側の取組

○集中した休日の設定と月2土曜休日の導入

- ・鉄道における輸送繁忙期(ゴールデンウィーク、お盆、年末年始等)に集中して休日を取得し、また輸送繁忙期がない月は月2回の土曜閉所を実施した。

○協力会社等との密な調整

- ・日々の打合せで、各協力会社の職長と工程について意見交換し、急行部を設けるために、作業日に超勤等で工程調整を行った。また鉄筋組立等において組立不能(支障)や組立しづらい場合などは設計図の変更等を事前に行い、スムーズに施工できる状況を作った。
- ・設計図の照査・設計変更図の作成を早めを実施し、発注者・設計コンサルと密な打合せを行うことで、速やかに変更承諾を得るようにした(工程遅延のリスク回避)。

■ 取組をおこなって良かった点

- ・発注者としては、テレビ通話アプリを活用した遠隔立会の実施等により、移動時間の削減に繋がった。
- ・受注者としては、現場閉所により元請会社の社員の休日が増えたこと、またテレビ通話アプリを活用した遠隔立会の実施によりタイムリーに立会実施することが可能となり、工程管理に寄与した。
- ・また受注者は、職員間の協力体制の醸成し、職員全員が極力均等に、4週8休できるよう相談しながら取り組んだ。

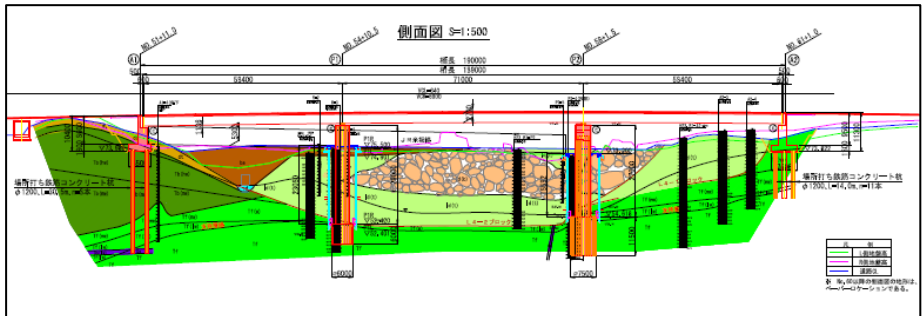
■ 留意すべき課題等

- ・元請けは5名の社員体制のうち工事管理者資格を有したものが4名であることから、元請けの社員が交代で休日を取得している。鉄道工事の現場は、施工日に工事管理者および工事安全専任管理者の2名が必要なため、有資格者の確保が課題である。
- ・本工事は、協定上の工期を厳守した上で4週6閉所を行うことができたが、4週6閉所等を行うことで協定期間が延びる場合、協定先(国や自治体等)に理解を得る必要がある。
- ・閉所数、休日数が増えるごとに工期も伸びるとともに、現場経費も増加することから受注者のみの企業努力では現場経営が難しくなる。管理費や間接経費の見直しが必要である。

Key Word: 月2土曜休日、テレビ通話アプリ、協力会社等との密な調整

11. こ線橋新設工事（施工中）★

工事概要

発注者	東日本旅客鉄道(株)	受注者	鉄建建設(株)
工事規模	契約額：(非公表) 工期：約 2,590 日		
工事内容	区分：新設 施設用途：道路 諸元等： ・橋台1基、橋脚2基、上部工1連、国交省施工：橋台1基  条件等： ・地盤条件：山間地・地滑り堆積層・ ・周辺環境：鉄道近接作業(影響範囲Ⅲ)および線路上空作業 ・引き渡し：2023年3月 施工体制： ・元請 現場技術者 専任6人、一次下請 20人、その他 5人		

取組目標

★ 現場閉所 4週8閉所 ★ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

- ・テレビ通話アプリを使った保安打ち合わせの実施や、輸送繁忙期の集中閉所により、4週8閉所は実現可能と考えた。
- ・元請けのアクションプログラムを下請けに説明し、4週8閉所について理解と協力を得ることができた。
- ・4週8閉所について、平成31年4月より取組みを開始した。

□ 目標対象者の範囲

- ・元請け・下請けの全ての従事者を4週8閉所の対象とした。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○BIMクラウドとテレビ通話アプリを活用した保安打合せ

- ・日々の発注者・受注者間の作業内容打合せ(保安打合せ)は、発注者と受注者がアクセスできるBIMクラウド上にアップロードされた打合せ資料で、ペーパーレスにて実施した。
- ・また打合せは、テレビ通話アプリを活用して遠隔地にて実施し、クラウド上で承認を行うことで、足ロスの削減を図った。

○施工調整会議

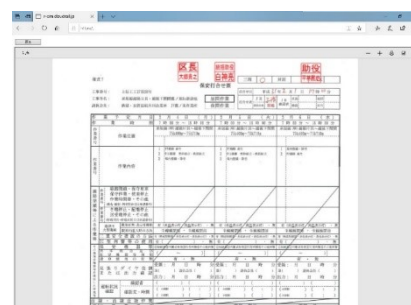
- ・協定先(国土交通省)が発注者となる隣接工区も工事しているため、工事進入路の重複や境界作業が発生するため、毎月施工調整会議を協定先・JR・受注者(協定先)・受注者(JR)の4者会議により調整しながら工事を進めた。

□ 受注者側の取組

○BIMクラウドとテレビ通話アプリを活用した保安打合せ

・日々の発注者・受注者間の作業内容打合せ(保安打合せ)は、発注者と受注者がアクセスできるBIMクラウド上にアップロードした打合せ資料で、ペーパーレスにて実施した。

・また打合せは、テレビ通話アプリを活用して遠隔地にて実施し、クラウド上で承認を受けることで、足ロスの削減を図った。



保安打合せ票

○工程調整会議開催

・工事の進捗状況や後工程を検討し、毎月末の月間工程会議や毎週木曜日の週間工程会議により、元請け・下請け間での工程調整を確実に実施した。

○年間休日カレンダー

・作業所閉所日や有給休暇奨励日等の年間計画を作成し、基本的に全ての土曜日・日曜日を閉所日として工程計画に反映させた。

・工程の都合上で土曜日に閉所できない場合は、代替日を設定し閉所としている。

・鉄道近接作業の規制期間や元請けの年末年始休暇などを連続した閉所日とし、有給休暇の取得を奨励している。



年間休日カレンダー

○職員ミーティング

・月に1回程度の頻度でミーティングを開催し、短期・中期・長期で取組む課題を共有し分担している。若手職員には施工管理要点の指導を行っている。これらの取組みが生産性向上につながり、前年度に比べ超過勤務時間が約20%短縮した。

○日給作業員の流出防止対策

・元請けの工程計画を下請けと共有し、早めに日程調整を行って作業員の確保を行った。

・日給労働者へも有給休暇5日の取得が義務つけられた為、労務単価を上乗せした。

○4週8閉所実施状況

・2019年4月より取組みを開始し4週8閉所以上を継続している。(2019年12月末時点)

■ 取組をおこなって良かった点

・BIMクラウドとテレビ通話アプリを活用した保安打合せにより、発注者・受注者ともに効率的に打合せを進めることができ、足ロスの削減に貢献した。

・受注者としては休日が増え超過勤務が減ったことで、計画的に健康増進や家族サービス等にあてる時間が増えた。

・元請けの取組みを下請けへ説明し理解を得ることで、下請けの4週8閉所への意識付けにも効果が見られる。

■ 留意すべき課題等

・発注者の意図としては、BIMクラウドとテレビ通話アプリを活用した保安打合せ、などにおける時間ロス削減を一つの効果として期待している。

・下請けは実働日数が減るため出来高払いによる収入が減り、日給月給制である作業員の収入にも影響する。元請けが支払う施工単価(労務単価)を週休2日に見合ったものに改善していく必要がある。

・発注者や事業主体者(行政)が設定している工期と、施工条件による受注者が必要と考える工期に差があり、週休2日を実施できない事がある。

・施工条件による工程の割増し係数や仮設損料期間・現場管理費率など、4週8閉所に合わせて変更する必要がある。

Key Word: BIMクラウド、テレビ通話、工程調整会議、年間休日カレンダー、職員ミーティング、労務単価

12. こ道橋新設工事（施工中）★

工事概要

発注者	東海旅客鉄道(株)	受注者	名工建設(株)
工事規模	契約額：約 25 億円 工期：約 2,191 日		
工事内容	区分：新設 施設用途：こ道橋 諸元等： ・構造：1層1径間ボックスカルバート ・幅員：車道 2車線(7.0 m)、歩道 1線(3.0 m) ・延長：28.8m ・施工方法：HEP & JES工法 条件等： ・施工現場は、駅構内の線路 6 線を横断することから、けん引延長が約 28.8 m と長い。 また、線路交差部と主要道路接続箇所までの距離が短いため土被りが深く取れず、エレメント天端から施工基面までの土被りは最低 330 mm と薄い。 施工体制： ※上床エレメント施工時 ・元請 現場技術者 専任 5 人、現場作業従事者 26 人 ・一次下請 6 社、二次下請 5 社(総下請社総数 11 社)		

取組目標

★ 現場作業従事者 年間を通して4週8休相当 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

・受注者は、有給休暇の取得や定期的な現場の土曜休日など「ワーク・ライフ・バランスの推進」の取組を行っていた。

・発注者は、当該現場では、GW・お盆・年末年始のそれぞれ 10 日ほどの長い作業規制期間等を活用することや昼夜作業の工夫で、休日を確保できる可能性があると考え、受注者と協議して目標設定を行った。

□ 目標対象者の範囲

・元請けの社員のみを対象としている。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○年間を通した4週8休相当の設定と認識の共有

・発注時に、受注者から提出された4週6休の基本工事工程を承諾している。

・また、GW・お盆・年末年始等の多客期間(年 30 日程度)は原則作業を行わない期間として設定し、受注者との協議の中でお互いに認識の共有を図っている。

・その結果、年単位で4週8休相当としている。

○施工上の工夫

・上床エレメント施工について、当初は、昼間・夜間1班ずつによる「昼夜連続作業」を計画していたが、作業員2班と設備類2セットを用意し、夜間にエレメント2本をけん引する「夜間2班作業」に変更し、生産性の向上を図った。

II. 鉄道事業分野

・具体的には、夜間作業のみに変更したことで、昼間は当該作業が休工となり、昼夜両方で配置していた工事管理者等を、夜間のみの配置とすることで、工事管理者等の昼間の休みを確保することができた。

・一方、軌道管理のために現場張付けと
していた軌道工も不在となり保安度が
下がる課題があった。そのため、昼間
においても、従来の昼夜連続作業と同等
の保安度を維持するため、以下の対策
を行った。

- ①軌道内、エレメント刃口、発進・到達
立坑内にカメラ4台を設置し、遠隔
地でもタブレット端末を通じた常時監
視・録画ができるシステムを採用し
た。
- ②作業中断時の切羽養生に用いる木
矢板に検知レーザーを照査し、万
一木矢板が動いた場合には、監督員
等にアラームメールが配信されるシ
ステムを構築した。



現場施工状況

■ 取組をおこなって良かった点

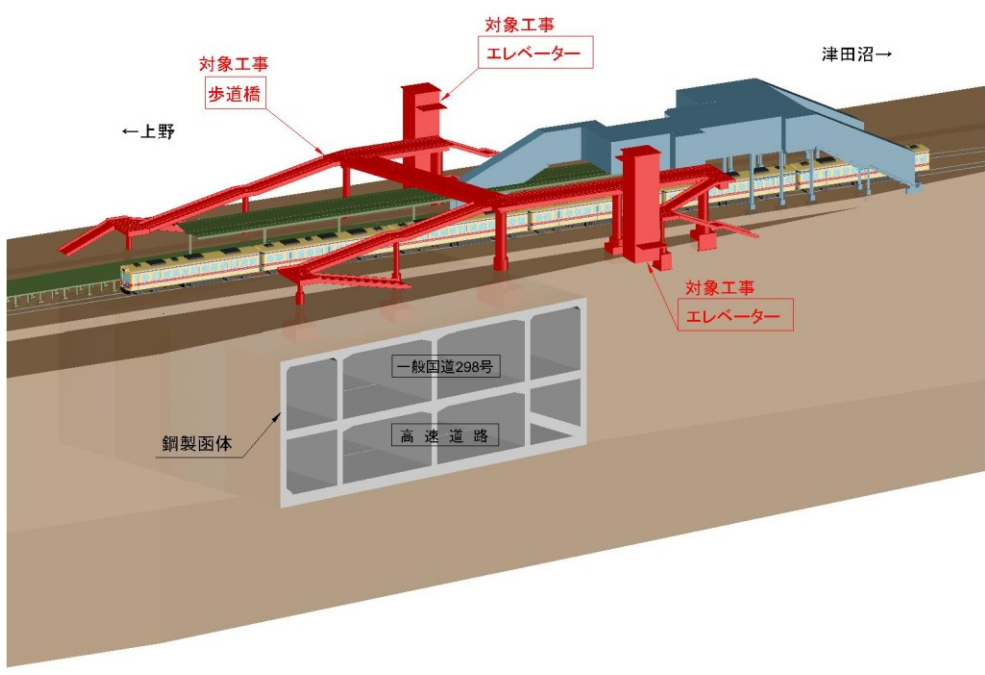
- ・工事管理者のみだけでなく、列車見張員等、保安要員の休日も確保することができた。
- ・週休2日相当の休日を取得することで、体・精神面を休養することができた。また、自由時間が確保でき、家族サービスを行うことができた。
- ・職員、作業員は、自分の時間を大切にしようとする意識が高まっている。

■ 留意すべき課題等

- ・鉄道事業の性質上、作業内容によっては多くの制約を伴う作業を行わなければならないが、保守作業との調整結果や天候やダイヤの乱れ、予期せぬ支障物の発生に伴い、計画通り作業日数を確保できない課題がある。
- ・本現場は軌道事務所が近くにあったため、土木工事に伴う軌道異常時の即応体制が取れる環境にあり、保安度を確保できたが、軌道事務所が近くでない現場では軌道班の即応時間により、保安度が下がる可能性もあり、適用には検討が必要である。

Key Word: 受発注者間の共有認識、夜間2班体制

13. 二線人道橋新設工事（施工中）☆

工事概要			
発注者	〇〇鉄道会社	受注者	〇〇建設会社
工事規模	契約額：約 10～99 億円	工 期	1,611 日
工事内容	区 分 :新設・土木		
	施設用途:二線人道橋		
	諸 元 等:跨線人道橋の設置		
	条 件 等:		
	・地盤条件:地下水位は GL-2.5m。		
	・周辺環境:営業線近接工事であり、周辺は閑静な住宅街。		
	施工体制: 一次下請 約 12 社、二次下請け 約 19 社（下請者総数:約 41 社）		
			

取組目標

★ 現場閉所 4週8閉所 ☆ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

・発注時において、4週8休での施工となる旨の説明を受注者から受けていた。

・列車運行障害による、夜間作業中止をせざるを得ない場合のための予備日を想定。

□ 目標対象者の範囲

・元請(JV含む)の社員のみで実施したが、下請作業員も4週8休の実施ができている。

・下請作業員は4週6休を目標としていたが、当現場閉所日に、他現場も閉所率が高くなってきており、結果的に、休みを取得する傾向になっている。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

- ・毎週土日は閉所とし、祝日も閉所とする方針を設定した。
- ・所定の出来形の完成目標日時を先に設定し、その中で4週8休とした場合の工程設定を行い、工事進捗させている。
- ・地下水位が GL-2.5m であるため、営業線に近接しての掘削工事に際しては地盤改良が必要であった。地盤改良工事は営業線に影響を与えることが懸念されたため、夜間の終電後の工事とし、軌道の変状監視を実施しながらの施工とした。

■ 取組をおこなって良かった点

- ・毎週土日、祝日は休みであることは、当たり前であると現場内全体が認識し、工程管理をするようになった。
- ・土日等は、自社が休暇中であり、事故等が発生した場合の対応が平日に比べ手薄になってしまうところ、4週8休を実現することで、そのような懸念事項がなくなる。

□ 留意すべき事項等

- ・休日には現場には誰もいないため、休日が多くなると現場保守が手薄になる。休日は警備員を常駐させており、契約金額に盛り込んでいる。
- ・重大災害が発生した場合には、再発防止対策などにより工事を一旦休止する可能性があり、この場合には工期遅延が発生するため、休日に作業もやむを得ない状況になる。
- ・下請作業員不足により、進捗が遅れ工期遅延が発生する場合も、休日に作業もやむを得ない状況になり得る。

Key Word: 週休2日、休日の警備

14. 道路橋補修工事（施工中）★

工事概要

発注者	西日本旅客鉄道(株)	受注者	大鉄工業(株)
工事規模	契約額：約 17 億円 工期：約 2,500 日		
工事内容	区分：補修 施設用途：道路橋 諸元等： ・鉄道線を跨ぐ、国道〇号線〇〇橋跨線橋の補修工事である。 ・昭和 2 年開業、斜角 23 度跨線道路橋 ・ポニータイドアーチ、鋼鈑桁、ラーメン構造の3つの部位で構成され複合橋 条件等： ・昼間線路横断あり ・夜間線路閉鎖工事＋夜間停電作業あり ・道路 1 車線規制あり ・周辺環境：北側住宅街 南側：病院・保育施設 ・引き渡し時期：2023 年 3 月 30 日 施工体制： ・元請会社 7 人（現場技術者 専任 3 人、現場作業従事者 3 人、その他 1 人） ・下請け階層 三次までの体制（一次下請 13 社、二次下請 14 社、三次下請 7 社）		



取組目標

★ 現場閉所 4週6閉所 ★ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

- ・当該現場は平成 28 年(2016 年)3月に着工し、当初は4週4閉所の4週4休で設定していたが、工事が進捗し、線路上空吊足場が完成し、鉄道特有の線路閉鎖時間等の制約を受ける作業が少なくなった。
- ・このため、令和元年度(2019 年度)から建設業の働き方改革の「4週8休モデル現場」として、工程の検討結果から4週6休閉所、4週8休(個人)を達成可能な目標として設定した。
- ・受発注者間でお互いに努力していこうとの合意形成があり、創意工夫により実施工程上、可能と判断している。

□ 目標対象者の範囲

- ・4週8休(個人)は、元請会社社員のみを対象としている。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○ 工程調整会議

- ・発注者と受注者の合同工程調整会議において、毎月の工程の説明及び取り組み状況の確認をしている。

○ 事故防止・着工準備会

- ・ペーパーレス会議を認め、モバイルディスプレイにより会議を実施し、効率化を図っている。



会議風景

□ 受注者側の取組

○協力会社との4週6閉所の取組み

- ・毎月、協力会社と工程会議を行い、協力会社と調整し、4週6閉所を実現している。

○元請会社社員の4週8休(個人)の導入

- ・出勤管理予定表を作成するとともに、GWやお盆のほか、各週の土曜・日曜を完全閉所にした工程計画とし、平日を含め元請会社社員を交代で休日を取得させる事で4週8休を実現している。

○会議体のディスプレイ化

- ・社内施工検討会および受注者との事故防止・着工準備会はペーパーレスにし、モバイルディスプレイ会議とすることで、資料制作時間の短縮を図っている。

○終礼の強化

- ・下請会社の職長も含めた終礼を強化し、作業の進捗、変更の有無、明日の予定を確認。

- ・元請会社社員については、本日の成果、休日予定及び休日明けの予定引継ぎの有無を確認。

- ・作業所内の各個人の業務内容を把握し、共有化を図る事により担当者不在でも交代で休める体制を整えた。



事務所内明示

○モデル現場の啓蒙

- ・現場事務所に横断幕を設置し「4週8休推進現場」を関係者へ周知している。

■ 取組をおこなって良かった点

- ・家族サービス等の計画を、前もって立てられ、家族からも好評である。また、現場内でも心にゆとりが持てるようになった。

- ・お互いの業務内容の理解を深めることでコミュニケーションが向上した。

■ 留意すべき課題等

- ・当該現場については、鉄道特有の制約(夜間線路閉鎖工事及び停電作業)を伴う工事であるため、計画段階で各種の手続き申請箇所との前広な調整が重要である。

- ・列車遅延等による線路閉鎖作業中止・作業時間変更が見込まれ工期延伸した場合、協定の工期内で終わらないことが見込まれ、事業主体側と事前に共通認識が必要である。また、請負価格(経費等)の上昇が懸念される。

- ・日当制の作業員もいるため、下請契約時の条件を取り決めておく必要がある。

Key Word: 工程調整会議、ペーパーレス、終礼の強化、啓蒙

15. 道床更换工事（完成済）★

工事概要			
発注者	〇〇鉄道会社	受注者	〇〇建設会社
工事規模	契約額：約 70 百万円		工 期：約 183 日
工事内容	区 分：改修		
	施設用途：軌道を支える道床碎石 (細粒化のため更換工事を実施)		
	諸 元 等：		
	・当社『道床バラスト標準仕様書』に規定した性能を満たす道床碎石		
	・碎石量 $V=1.02\sim1.46\text{m}^3/\text{m}$		
	条 件 等：		
	・路盤と道床碎石の間に発注者から支給したバラストマットを敷設		
	・道床碎石運搬は発注者保有の軌道モーターカーを使用		
	施工体制：		
	・元請 現場技術者 専任1名、現場作業従事者平均 15 名/日		
			

取組目標

★ 現場閉所 4週8閉所 ★ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

- ・施工数量や受注者の工程の検討結果から、発注者として4週8日を達成可能と判断し、目標設定した。
- ・2019 年度は、設定した目標を達成した。

□ 目標対象者の範囲

- ・元請・下請を問わず、すべての配置技術者及び現場従事者(平均 15 人/日)を対象とした。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○早期発注

- ・早期発注により、工期を長めにとることで、週4週8閉所を実現しやすいよう配慮した。

□ 受注者側の取組

○週休2日の導入

- ・道床更换工事は終電後の夜間作業で実施しており、金曜日の終電後の作業を実施すると、作業は土曜日の早朝までかかり、土曜日は完全な休みとならない。

- ・これを解消するため、作業日を月曜日～木曜日に設定して、土曜日・日曜日を完全に休めるようにし、週休2日を実現した。

- ・日給制の現場従事者の他現場への流出防止策として、現説時に発注者から想定工期や条件を丁寧に確認することで、計画工程と実工程の乖離を少なくし、工事が予定通り実施できるよう努め、他現場への流出を防いでいる。

■ 取組をおこなって良かった点

- ・肉体疲労の回復やメンタルヘルスの向上に繋がっている。
- ・家庭をもっている人は、家族団らんの時間を確保できるようになった。
- ・発注者の監督者、請負者の監督者について、金曜日終電後の夜間作業は基準外労働として位置付けているため、基準外労働時間の削減に繋がっている。

■ 留意すべき課題等

- ・モーターカー等の保線機械等の故障により作業できない期間が生じ、工程がひっ迫した場合は週休2日の維持が難しくなる
- ・他工事にも本事例のように月～木曜作業を展開していくと、同じ区間での作業競合が多く発生した場合は作業日の譲り合いにより、結果的に金曜日の夜間作業を設定せざるを得なくなり、週休2日が保てなくなる可能性がある。

Key Word: 早期発注

16. 進入防止柵設置工事（完成済）

工事概要

発注者	(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構	受注者	〇〇建設会社
工事規模	契約額：約7千万円 工期：337日		
工事内容	区分：新設・土木 施設用途：用地侵害柵 諸元等： ・用地侵害防除柵工 H=1.5m L=1,948m、転落防止柵 1箇所、門扉工 1.0m・14箇所 3.6m・6箇所、進入防止柵 1箇所、風倒木伐採工 一式 条件等： ・工事着手にあたり他工事との工程調整が必要。 施工体制： ・下請け階層：二次、一次下請 3社、二次下請 2社(下請者総数:5社)		
	 		

取組目標

★ 現場閉所 4週6閉所 ★ 現場作業従事者 4週6休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

- ・発注者は、関連工事との工程調整の結果、4週6休を目指すこととした。
- ・他工事による工程計画の修正において、受注者との調整に問題は生じなかった。
- ・受注者としては、工事を受注した際は、4週4休で工程を組み立てていたが、競合する他工事との工程調整した結果、工期が延伸する予定となり、それに伴い工期に猶予ができたため、4週6休で目標を設定した。
- ・最終実績としては、4週6閉所(4週6休)であった。

□ 目標対象者の範囲

- ・原則、元請け、下請けを問わず全ての現場従事者(元請け:職員3人、作業員2~5人、下請け:職員2人、作業員3人)を対象とした。
- ・取組開始当初に、対象者からの取組に対する抵抗等は特になかった。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○月2土曜休日の導入

- ・月2回、土曜日を閉所することにより、4週6休・4週6閉所を行った。

- ・発注担当者、現場代理人、監理技術者が基本参加する週間打合せにおいて、4週6休の実現に向けた工程管理を行った。

□ 受注者側の取組

○月2土曜休日の導入

- ・土日を休日とし、隔週で4週6休を実施した。

○毎日の打合せを通じた工程管理

- ・作業日報や週間、月間工程表を基に、毎日の打合せを密に行い、工程管理を行っていた。毎日の打合せには元請けの職員・作業員3～4名、下請はその都度変化するが、2～3名が参加した。

- ・競合する他業者や発注者とは、2ヶ月に1回程度の打合せを行った。

■ 取組をおこなって良かった点

- ・受注者としては、休日が増えることによって、家族サービスや趣味に時間を使え、また体調管理がしやすくなった。

■ 留意すべき課題等

- ・受注者としては、下請業者の作業員が日給月給制で、休日の増加により収入が減少するため、当該現場で作業員を確保しにくくなった(他現場に流出してしまう)。
- ・休日の増加により現場管理出来ない日が増え、第三者事故が起こる可能性がある。本工事では、長期の閉所日は巡回等しているが、短期の閉所日は特に巡回等しなかった。
- ・目標達成を困難にする恐れのある事項等としては、関連工事との工程調整があった。
- ・本工事は施工箇所が広範囲に点在していたこともあり、本工事の取組や目標が他の類似工事においても可能かは分からない。
- ・なお、類似工事において、本工事と同じ取組や目標を設定するとした場合、その取組や目標達成を阻害する恐れのある要素として、想定外の大雪による作業可能日数の減少、工場製品の納期遅れによる工程圧迫が挙げられる。

Key Word: 月2土曜休日、定期の会議

17. 侵入防止柵改修工事（施工中）☆

工事概要			
発注者	東京地下鉄(株)	受注者	坂田建設(株)
工事規模	契約額：約3.6億円	工期	450日
工事内容	区分：改修・土木 施設用途：侵入防止柵 諸元等： ・車両基地における部外者侵入を防ぐため、用地境界柵を3m化(施工延長1,546.8m) 条件等： ・周辺環境：住宅地が隣接し、歩道に面した箇所より騒音・安全などの対策に配慮が必要。 施工体制： ・下請 3社(フェンス、土工、ガードマン)  		

取組目標

★ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

・発注者は、営業線工事に比べ、夜間の試運転運行や終夜送電など他部署の影響が少なく、工期を設定しやすい車両基地内の本工事を選定し、4週8休を設定した。

・営業線工事の場合は、お客様への影響が大きいですが、本工事の作業場所が車両基地であるため他への影響が少ない。

□ 目標対象者の範囲

・元請けの社員のみを対象としている。

・発注者は、下請けの社員を対象とした場合、4週8休の管理が困難であると判断した。

・現場着手に向けて施工計画書を作成中であるが、基本、発注者が現場作業従事者の休日まで指示することは考えていない。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○週休2日の導入

・元請けの社員が週休2日を取れるよう協議し、工期全体として4週8休を実施させる。

○契約仕様書への規定

・契約書の仕様書に「元請社員の4週8休を実施することとし、実施結果が分かるような出面表の作成を行うこと。」と記載し、4週8休以下の工程計画であっても、元請けの社員が4週8休することが可能であれば、特に指示はしない。

年 月 日	曜日	元請け業者							下請け業者						参考
		氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	OO建設	OO建設	OO建設	OO建設	OO建設	OO建設	
2019年2月1日	金	○	○	○											
2019年2月2日	土	—	—	—											
2019年2月3日	日	—	—	—											
2019年2月4日	月	○	○	○					1						
2019年2月5日	火	○	○	○											
2019年2月6日	水	○	○	○											
2019年2月7日	木	○	○	○											
2019年2月8日	金	○	○	○											
2019年2月9日	土	—	—	—											
2019年2月10日	日	—	—	—											
2019年2月11日	月	—	—	—											
2019年2月12日	火	○	○	○											
2019年2月13日	水	○	○	○											
2019年2月14日	木	○	○	○											
2019年2月15日	金	○	○	○											
2019年2月16日	土	—	—	—											
2019年2月17日	日	—	—	—											
2019年2月18日	月	○	○	○											
2019年2月19日	火	○	○	○					6		4				
2019年2月20日	水	○	○	○					7		4				
2019年2月21日	木	○	○	○					5		4				
2019年2月22日	金	○	○	○					6		4				
2019年2月23日	土	—	—	—											
2019年2月24日	日	—	—	—											
2019年2月25日	月	○	○	○					8		4				
2019年2月26日	火	○	○	○					7		4				
2019年2月27日	水	○	○	○					10		4				
2019年2月28日	木	○	○	○					6		4				
2019年2月 合計		19	19	19	0	0	0	0	56	0	32	0	0	0	0
前月まで累計		7	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合累計		26	26	26	0	0	0	0	56	0	32	0	0	0	0

出面表のイメージ

□ 受注者側の取組

・現時点での取り組みは特にない。

■ 取組をおこなって良かった点

・今後、受注者の意見を集約していく予定である。

■ 留意すべき課題等

・通常の工事では当然であるが、周辺住民からの騒音苦情や事故が発生した場合には、その対策・対処にかかる時間をリスクとして考えている。

・今後、目標達成を困難にする恐れのある事項等は、本モデル工事を通じて検証していく予定である。

・営業線工事では、夜間試運転、終夜送電や他部門工事の影響を受けることとなるため、本工事の取組がそのまま使えるとは考えていない。発注者内部の各部門との調整が必要になることから、類似の他工事においても実施が可能かは分からない。

Key Word: 週休2日、契約仕様書

18. 法面整備工事（完成済）

工事概要			
発注者	〇〇鉄道会社	受注者	〇〇建設会社
工事規模	契約額：約4億円	工期	365日
工事内容	区分：改修・土木 施設用途：法面（斜面） 諸元等： ・モルタル吹付工 2,161m²、吹付法枠工 3,238 m²、ロックボルト工(L=4.0m) 1,200 本、基礎コンクリート設置工 321m 条件等： ・周辺環境：鉄道との近接施工であり、列車接近及び通過時の待避で、作業の中断あり。 ・引き渡し：現場内競合保線作業が 2019 年 2 月から発生することが、2018 年 4 月に判明し、2019 年 1 月末まで保線作業に現場の一部を引き渡す必要が生じた。 施工体制： ・下請け階層：三次、一次下請 6 社、二次下請 5 社、三次下請 4 社 		

取組目標

★ 現場閉所 4週8閉所 ★ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

- ・発注者は、当該工事箇所の隣接地において同様の工事を前年度にも実施しており、その実績に基づいて計画した結果、4週8休の工期を設定することができた。
- ・工事契約の直後に受注者との施工検討会を開催し、安全管理や品質管理面に影響なく週休2日の工程で工事が実施可能であることについて合意形成を図った。また、その内容について、工事の進捗とともに週間・月間単位で受注者との打合せの機会を設け、発注者と受注者が協同で工程を管理した。
- ・受注者が、前年度からの継続工事であったことから、施工実績を踏まえ、発注者としては、本工事の発注を早期に行い、工期に余裕を持つことができた。
- ・最終実績としては、4週6閉所(4週6休)程度であった。

□ 目標対象者の範囲

- ・原則、元請け、下請けを問わず全ての現場従事者(元請け3人、下請けの現場作業従事者 平均約 25 人)を対象としていた。

- ・遠方からの現場作業従事者については、土曜日作業を行いたいとの話はあったが、発注者及び受注者の働き方改革の取組に伴い、契約時に4週8休目標とすることを契約条件に盛り込み、契約を行った。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○週休2日の導入

- ・原則、土日を閉所とする週休2日とし、4週8閉所としていた。
- ・なお、前年度の工事と同様に積雪影響による作業遅延との施工障害が想定されたため、作業遅延を解消するために週休1日となることも見込んでいた。

□ 受注者側の取組

○週休2日の導入

- ・原則平日のみの作業で、週休2日とし、4週8閉所で実施した。

○定期の会議等を通じた工程管理

- ・日々の打合せ、週間、月間会議を通じて、定期的に打合せを行い、週休2日の実現を目標に施工を進めた。
- ・発注者との週間・月間会議には、発注者の担当者と元請け技術者が、また現場の日々、週間、月間(変更があれば随時)打合せには元請けと一次下請けの職員が参加した。
- ・工事を進める上で公共用地を借用したりする手続に時間を要したり、例年にない猛暑により、休憩時間を大幅に増やす等、当初工程より遅延が生じた。

■ 取組をおこなって良かった点

- ・鉄道近接作業は列車運行支障等のリスクがあるが、土休日の作業により列車運行支障等のリスクがなく、発注者としては土休日の緊急対応の負担軽減につながった。
- ・受注者としては、各自が日々の業務を計画的に行うようになり、休暇取得に対する意識が強くなった。また、鉄道近接施工のため、土日の列車運行支障等のリスクが減り、元請けの社員の負担軽減となった。

■ 留意すべき課題等

- ・4週8休を前提とした工事価格の設定が必要である。
- ・作業用通路として使用する用地に関し協議が必要であることは想定していたが、用地管理者との用地占用協議に想定以上の時間を要したため、作業着手時期が2カ月程度遅延した。このため、休工を前提としていた土曜日に作業せざる負えず、4週8休の目標に対し、影響があった。
- ・猛暑の影響により、休憩時間を多めに取る必要から、工事進捗が低下した。
- ・鉄道特有の現場環境のため、作業は土日休工でも現場巡回等の配置が必要であり、元請けの職員及び警備会社は休日出勤もやむ得ない状況であった。

Key Word: 週休2日、定期の会議

19. 法面改修工事（完成済）

工事概要			
発注者	小田急電鉄(株)	受注者	〇〇建設会社
工事規模	契約額：非公開	工期	220 日
工事内容	区分：改修・土木 施設用途：法面 諸元等： ・盛土法面の改良 ・施工延長 上り線 79.3m、下り線：98.8m ・法面最大高さ 上り線 5.98m、下り線：5.50m 条件等： ・市に自費工事申請。 ・周辺環境：住宅地。 搬入路確保のための借地(市、隣接地主)。 施工体制： ・一次下請 4 社   		

取組目標

★ 現場閉所 4週8閉所 ★ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

- ・発注者は、自社工事であり、工期の調整が行いやすく、また建設業界における中長期的な担い手確保、育成の視点から必要な取組であると理解していたため、発注時点から週休2日制を検討し、4週8閉所を考慮した工程で問題が出ないよう調整を行った。
- ・また本工事は、夜間作業を伴わない工事であり、営業線に近接した仮設材が発生しない工事であった。
- ・本工事は特命随意契約であるため、事前に受注予定者に設定工期に関するヒアリングを実施している。悪天候による作業中止等を考慮した、余裕を持った工期設定として欲しいという受注予定者からの意見を踏まえ、4週8休の工期を設定した。
- ・最終実績としては、4週8.5閉所(4週8.5休)であった。

□ 目標対象者の範囲

- ・原則、元請け、下請けを問わず全ての現場従事者(元請け2人、一次下請約 20 人)を対象とした。
- ・受発注者ともに、事前に対象工事であることをお互いに認識できていたため、取組開始当初の抵抗等はなかった。
- ・週休2日を考慮した工期設定と契約後すぐに工事着手できるよう、発注者側において事前に借地協議等を実施していた。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○週休2日の導入

- ・原則土日を完全閉所とし、4週8閉所とした(年末年始期間、異常気象に伴う点検等は除く)。なお、祝日は閉所数に含めていなかったため、現場は稼働していた。
- ・全体工程表、2週間工程表、毎日の作業実施書による確認とともに、降雨等により作業が中止になった場合、振替作業の有無、振替日を確認することで、週休2日の実現に向けた工程管理を実施した。

□ 受注者側の取組

○元請社員2名体制

- ・受注者は、通常1名体制であるのに対し、本工事では監理技術者兼現場代理人1名、担当者1名の2名体制で施工管理を行った。

■ 取組をおこなって良かった点

- ・建設業界の課題として、発注者および受注者の双方で認識を深めることができた。

■ 留意すべき課題等

- ・天候による、工程遅延が不安要素としてあった。降雨等で急遽作業を中止した場合、下請けは休日とすることができるが、元請けは現場の状況確認および管理(悪天候による現場の異常発生等)を行う必要があるため、休日とすることは難しい。
- ・取組を阻害する恐れのある要素として、作業人員不足、天候(特に雪。溶けるまでは作業中断)、供用開始時期に制約がある場合、想定外の支障物がでた場合、周辺住民からのご意見、施工に関する制約(施工時間、施工日時等)が挙げられる。

Key Word: 週休2日、現場2名体制

20. 落石防止網新設工事（完成済）

工事概要			
発注者	〇〇鉄道会社	受注者	〇〇建設会社
工事規模	契約額：約3千万円	工期	120日
工事内容	区分：新設・土木 施設用途：落石防止網 諸元等： ・落石防止網 約860m² 条件等： ・周辺環境：付近に道路が無い、ため、夜間線路閉鎖工事にて材料を搬入。 施工体制： ・一次下請 1社、二次下請 1社（下請者総数：約2社） 		

取組目標

★ 現場閉所 4週8閉所 ★ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

・発注者は、自社物件の工事であり、工程の調整が容易であったこと、更に働き方改革を推進するため、4週8閉所、4週8休の目標設定を行った。

・最終実績としては、4週8閉所（4週8休）であった。

□ 目標対象者の範囲

・原則、元請け、下請けを問わず全ての現場従事者を対象とした。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○ 週休2日の導入

・基本的に4週8閉所を実施するよう、受注者と協議した。

・過去の同種工事の実績をもとに4週8閉所となった場合の工期を算出し、設定した。

■ 取組をおこなって良かった点

- ・発注者としては特にありませんでした。

■ 留意すべき課題等

- ・施工障害による工程遅延が生じた場合には、工期延伸を検討する可能性があった。
- ・本工事の取組や目標は、他の類似工事においても可能と考えられる。

Key Word: 週休2日

21. 防風壁設置工事（完成済）★

工事概要			
発注者	〇〇鉄道会社	受注者	〇〇建設会社
工事規模	契約額：約 1.5 億円		工 期：約 480 日
工事内容	<u>区 分</u> ：新設		
	<u>施設用途</u> ：防風壁		
	<u>諸 元 等</u> ：		
	・支柱 H150×150		
	・有孔折板		
	<u>条 件 等</u> ：		
	・周辺環境：住宅街・盛土部。		
	・引き渡し(予定)：防風壁→2020 年 3 月 31 日、抑草対策→2020 年 9 月 30 日		
	<u>施工体制</u> ：		
	・元請 現場技術者 専任1人、現場作業従事者3人		
	・下請階層 一次下請2社		
			

取組目標

★ 現場閉所等の目標は 未設定

□ 目標設定の背景等

・(目標未設定のため特になし)

□ 目標対象者の範囲

・(目標未設定のため特になし)

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○受注者との工程調整

・週に1回の定期的な工程会議を実施する他、発注者と受注者で密に打合せを実施し、受注者側が4週8休を取りやすい環境を整えた。

□ 受注者側の取組

○ITツールの活用

・現場技術者に、IT通信機器を配布し、現場詰所等においてもリアルタイムに作業指示書等の諸資料を作成することで、内業等に充てる時間を確保した。

○週休2日の導入

・GWや夏季・冬季休暇を完全閉所した工程計画とし、4週8休の実現に努めた。

- ・天候等の工程変動に対し、全休工にすると、工期内竣工が難しくなる為、土曜日の現場稼働を行う際、現場作業関係者の配置を再考した。

■ 取組をおこなって良かった点

- ・休暇取得日がある程度見越して取得できるようになったため、休暇日の活用を事前検討できるようになり、家族との時間を共有できるようになったと聞いている。

■ 留意すべき課題等

- ・受注時(工事発注段階)において、計画工程に十分なゆとりが必要となる。
- ・実作業に係る労務者の確保が必須となる。
- ・実作業に係る労務者(日給月給制の労務者)に対する、賃金の見直しが必要となる。
- ・線路内競合作業や合番作業等のスケジュール調整によって、週休2日を守れなくなる恐れがある。

Key Word: 定期の工程会議、ITツール

22. 工業用水道管新設工事（完成済）★

工事概要			
発注者	北海道旅客鉄道(株)	受注者	伊藤組土建(株)
工事規模	契約額：約1億円 工期：180日		
工事内容	区分：新設 施設用途：工業用水道管 諸元等： ・地方自治体を事業主体とした線路下への工業用水道管新設工事 ・管推進工 L=136.9 m、φ=800 mm(鋼製さや管推進工法(泥水式)) ・立坑工 2基(発進側：シートパイル、到達側：鋼製ケーシング) 条件等： ・周辺環境： ・作業位置は、鉄道駅構内であり、鉄道営業線3線、貨物線4線の計7線及び市道下の推進工事。 ・線路下約5mの位置への推進工事であることと、立坑位置が線路から約30m離れているため、一部作業を除き鉄道工事特有の列車の運転保安上の手続き(線路閉鎖工事等)を必要としない。 ・到達立坑位置が市道であるため、一部作業で24時間片側交互通行が必要。 ・引き渡し：・事業主体である地方自治体に2019年9月に引き渡し 施工体制： ・下請け階層：一次、一次下請 5社		

取組目標

★ 現場閉所 4週8閉所 ★ 現場作業従事者 4週8休 を目標に設定

□ 目標設定の背景等

・線路下約5mの位置へ工業用水道管を線路下に推進する工事であることと、立坑位置が線路から約30m離れていることから、鉄道工事特有の列車の運転保安上の手続きである線路閉鎖工事等の制約条件がないため、列車運行の影響を受けることなく計画的に工事を進めることが可能と考え、4週8閉所・4週8休以上を目標として設定した。

・事業主体から週休2日工事の施工による、工事完成品の引き渡し時期について理解を得ることができたため、週休2日(4週8休)を確保することを指定して発注を行った。

□ 目標対象者の範囲

・原則として、元請の現場従事者を対象とした。

取組内容

■ 目標達成のための実施方法や工夫等

□ 発注者側の取組

○週休2日工事に関する補正

・4週8休を確保できるように工期設定を行い、発注を行った。

・週休2日導入による諸経費等の増加を考慮した発注を行った。

○定期的な工程会議の実施

・月間工程会議を実施し、休日の取得状況、休日日数の増加による工程への影響について、受注者と情報共有を行った。

・前月の休日の取得状況と当月の休日予定を記載した月間工程表により、受注者と週休2

日の達成状況について情報共有を行った。

□ 受注者側の取組

○週休2日を考慮した工程表の作成、共有

・4週8閉所及び元請の現場従事者については4週8休以上となるように、下請と綿密な作業工程の調整を図り、月間及び週間工程表の作成を行った。

・月間及び週間工程表に基づき、休日実績状況を随時、発注者へ報告した。

○休日の振替

・作業員の手配、作業工程等により、休日計画日に止むを得ず作業となった場合は、平日の作業予定日へ休日の振替を行った。

■ 取組をおこなって良かった点

○発注者

・受注者と作業工程等の打合せを密に行うことで、発注者・受注者間のコミュニケーションが増え、工程のクリティカルパスを前広に知ることができ、従来よりも精度の高い工程管理を行うことができた。

○受注者

・従来の工事よりも休日が増えたことで、休日の過ごし方に余裕ができ心身のリフレッシュに繋がった。

・通常6日でこなす業務を5日で完了させるため、自然に効率の良い方法を模索し実践するようになった。

・個人のモチベーションが向上したことで現場内の雰囲気も良くなり、結果として生産性も向上した。

■ 留意すべき課題等

・週休2日による施工の対象工事の場合は、それを考慮した工期を設定しているが、協定工事等で事業主体から期限が決められている工事や、線路閉鎖工事等の作業時間に制約がある工事の場合は、週休2日実現に向けた工期設定、休日の確保が難しい。

・今回の工事については、事業主体から週休2日工事に関して理解を得ることができ、工事完成品の引き渡し時期について余裕があったことと、列車の運転保安上の手続きを必要としない作業が主となり、鉄道工事特有の制約条件が少なかったため、目標を達成することができたと考えている。

Key Word: 週休2日工事の補正、定期の工程会議、工程表、振替休日

